



大磯町環境基本計画は、町ホームページに掲載されているほか、役場本庁舎、国府支所、図書館(本館・分館)でご覧いただけます。

- 基本目標1 地球にやさしく、気候変動に備えるまち
- 基本目標2 豊かな自然を大切にし、多様な生物と共生するまち
- 基本目標3 健康で安心して暮らせる、美しいまち
- 基本目標4 ごみを減らし、資源を大切にするまち
- 基本目標5 環境を守るために、行動する人をはぐくむまち

6月は環境月間!

みんなでつくる人と自然が共生した持続可能なまちをめざして

令和5年3月に改定した大磯町環境基本計画では、町民及び滞在者、事業者、町のそれぞれの主体が、計画の目的や趣旨を理解し、積極的に取り組みを行い、それぞれの役割を果たすとともに、連携・協働して環境保全活動を推進していくこととしています。

5つの基本目標に沿って、大磯町の豊かで良好な環境を守り育てていきましょう。

問環境課 ☎(72)4438



私たちができること

「捨てればごみ、分ければ資源」と言われますが、プラスチックも、きちんと分別すれば資源としてリサイクルすることができます。

プラスチックの4R(リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル)を進め、プラスチックを有効に、賢く利用することで、海のプラスチックごみも減らすことができます!

リフューズ
Refuse
ごみになるものを断る

マイバッグを持参してレジ袋を断る。
包装は簡単に、余計な包装は断る。

リデュース
Reduce
ごみになるものを減らす

ボールペンは替え芯などを有効活用する。
お菓子は食べられる分だけ買う。

リユース
Reuse
繰り返し使う

フリーマーケットやリサイクルショップを活用する。
不要なものは、必要な人に譲る。

リサイクル
Recycle
原材料として再生利用

資源物とごみを分別して出す。
再生品(リサイクル製品)を使用する。

はじめよう、ペンのリサイクル

町では、使用済みの筆記具をごみとして捨てるのではなく、積極的に再利用して限りある資源を効率的に使用することで、持続可能な取組みを実施します。皆さんも使用済みペンを持参して、プラごみの削減に取り組みましょう!

使用済みペン回収ボックスを設置します!

- 回収箱の設置開始日 6月1日(木)
- 回収箱の設置場所 役場本庁舎 国府支所
- 回収対象 使用済みプラスチック製筆記具類 (例: ボールペンやシャープペンシルなど)
- その他 ・ブランド・メーカーは問いません。
・回収対象などの詳細は町ホームページをご確認ください。



STEP1

まずは基本を徹底しよう!

- ▶ポイ捨てをしない!
- ▶正しいごみの分別・処理!



Q 容器包装プラスチックって?

A 商品が入っている容器や包装のことで、その商品が消費されたり、取り出されたあとに不要となるもののうち、プラスチック・ビニール製のもの。

STEP2

使い捨てプラをやめよう!

- ▶マイバッグを使ってレジ袋を断ろう!
お気に入りのマイバッグを見つけよう!
- ▶マイボトルを持とう!
役場本庁舎などのウォーターサーバーを活用しよう!

清掃活動に参加しよう!

- ▶毎年5月に実施される「美化キャンペーン」や地域の清掃に積極的に参加しよう!



この箱が目印!

みんなで一緒にプラごみ削減に取り組もう!

ペットボトルなどの容器や包装から家庭用品、おもちゃなど、日常生活のあらゆる場所で利用されているプラスチック。便利な一方で、ポイ捨てなど不適切に処分されたプラスチックごみが大量に海に流れ出て、海の環境を汚し、海の生き物にも悪影響を及ぼしています。

海が身近にある私たちだからこそ、意識的に活動して、プラごみ削減に取り組みましょう!

海のプラスチックはどこから来るの?

2018年の夏に神奈川県鎌倉市の浜辺に打ち上げられたクジラの赤ちゃんの胃の中からプラスチックごみが出てきたことを知っていますか?

エサと間違えて食べたビニール袋が消化されず、クジラの胃の中がビニール袋でいっぱいになり、魚などのエサが食べられなくなって死んでしまったと言われていて、同様の事例が世界各地でいくつも報告されています。

海のプラスチックのほとんどは陸から出たもの

レジ袋やペットボトル、使い捨ての食器、商品のパッケージなど、使い捨てにされるプラスチックもたくさんあります。

そうしたプラスチックごみがポイ捨てされたり、屋外に放置されたりすると、雨や風によって河川に入り、海に流れ出てしまいます。

海のプラスチックのほとんどは陸から出たプラスチックごみと言われていて、それらは潮の流れや風の力によって遠くまで運ばれたり、水面や水中を浮遊して遠くまで運ばれたり、海底に沈んだりしています。



写真提供: (公財) かながわ海岸美化財団

2050年の予測

海洋プラスチック 海の魚たち



世界経済フォーラムでは、2050年までに「海のプラスチックごみの重さが魚の重さを上回る」という驚きの予測を発表しています。

海洋ごみが自然分解されるまで

吸い殻	1.5年~10年
レジ袋	1~20年
発泡スチロール製カップ	50年
アルミ缶	200年
ペットボトル	400年
おむつ	400年
釣り糸	600年

私たちがよく使うペットボトルが自然分解されるまで、400もの月日が必要だなんて知っていましたか?

大磯の海岸にあるプラごみも拾ってくれるとうれしいな!

一人ひとりの行動がプラごみ削減の第一歩! 自分にできることを考えよう!